

熊本県立美術館 EXHIBITION

スケジュール 〈第Ⅰ期～第Ⅱ期〉

	特別展	細川コレクション	美術館コレクション
4月	ピカソ—版画に魅せられた巨匠 3月29日～5月18日	細川コレクションⅠ 〈特集〉 武士のファッション —戦場の装いから装身具まで— 4月5日～6月29日	美術館コレクションⅠ 〈特集〉 画家たちの系譜 —フランスから日本へ— 4月5日～6月29日
5月			
6月			
7月	熊本⇄東京 画家たちの上京物語 7月19日～8月31日	細川コレクションⅡ 〈特集〉 花鳥の美 —百花繚乱の東洋美術— 7月11日～9月28日	美術館コレクションⅡ 〈特集〉 藤崎八幡宮の歴史と名宝 7月11日～9月28日
8月			
9月			

関連イベント

ミュージアムセミナー

展示会の内容や当館の活動に関するくわしい話、美術や歴史についての裏話などを楽しくご紹介するセミナーです。事前申込みは不要で、どなたでも無料で参加できます。

4月26日(土)14:00～15:00

「ピカソ—版画に捧げた情熱」
講師：当館学芸課主幹 村上 哲
会場：本館講堂

5月10日(土)14:00～15:00

「武家の装い」
講師：当館学芸員 才藤 あずさ
会場：本館講堂

6月21日(土)14:00～15:00

「清正文書研究の最新成果」
講師：当館主任学芸員 山田 貴司
会場：本館講堂

子ども美術館

展示会の内容にあわせ、美術や歴史の理解につながる子ども向けのワークショップを開催いたします。事前申込みは不要で、どなたでも無料で参加できます。ただし、展示室に入場される場合には、観覧料が必要となりますのでご注意ください。

4月20日(日)10:30～12:00

「かんたん版画でピカソになろう！」

6月15日(日)10:30～12:00

「ぬり絵で知る、武士のファッション」

学芸員による ギャラリートーク

会期中の毎月第二・第四日曜日の14時から、当館学芸員が展示作品について30分程度解説いたします。開始時間前に二階会場入口までお越しください。なお、ギャラリートークのご参加には観覧料が必要となりますので、ご注意ください。

4月13日(日)、4月27日(日)

5月11日(日)、5月25日(日)

6月8日(日)、6月22日(日)

交通案内

Transportation guide

- バス/交通センターから歩いて15分、または交通センターで熊本城周遊バス(通称:しろめぐりん)に乗り換え「熊本城二の丸駐車場」下車、歩いて3分
- 市電/「熊本城・市役所前」または「花畑町」下車、歩いて15分
- JR/熊本駅から熊本城周遊バスで「熊本城二の丸駐車場」下車、歩いて3分上熊本駅からタクシーで10分
- 阿蘇くまもと空港/空港バスで交通センターへ、センターから歩いて15分または熊本城周遊バスに乗り換え「熊本城二の丸駐車場」下車、歩いて3分
- 駐車場/二の丸駐車場(有料)三の丸駐車場(有料)



KUMAMOTO PREFECTURAL MUSEUM OF ART
熊本県立美術館[本館]

本館 〒860-0008 熊本市中区二の丸2番 TEL.096-352-2111 FAX.096-326-1512

<http://www.museum.pref.kumamoto.jp/>

武士の ファッション

—戦場の装いから装身具まで—

細川コレクション

HOSOKAWA



【会期】平成26年4月5日(土)～6月29日(日)

※作品保護のため、会期中に一部作品の展示替えを行います。

◆別棟展示室 武士のファッション
二階展示室第1室 常設展示

主催/熊本県立美術館・熊本日日新聞社・RKK熊本放送
協力/熊本ルネッサンス県民運動本部 肥後銀行
特別協力/公益財団法人 永青文庫

細川斉嘉所用(白緋ラシヤ段替わり陣羽織) 江戸時代後期
永青文庫所蔵 ※展示期間:5/13(火)～6/29(土)

MUSEUM

画家たちの 系譜

—フランスから日本へ—

美術館コレクション

【会期】平成26年4月5日(土)～6月29日(日)

※作品保護のため、会期中に一部作品の展示替えを行います。

◆二階展示室第3室 画家たちの系譜
第2室 常設展示

主催/熊本県立美術館

アンドレ・ロート《麦藁帽子を被ったマルグリット》
André LHOTE "Marguerite au Chapeau de Paille"
1920-1929年油彩・カンヴァス ©ADAGP,Paris & JASPAR,Tokyo.2014 E0873

観覧料金

- 共通券/一般420円(300円) 大学生250円(190円)
- 別棟展示室のみ/一般210円(160円) 大学生130円(100円)
- 本館二階展示室のみ/一般270円(190円) 大学生160円(120円)

高校生以下無料・障がい者手帳をお持ちの方無料
※()内は20名以上の団体料金 ※前売券なし

開館時間/9時30分～17時15分(入館は16時45分まで) 休館日/毎週月曜日(月曜日が祝日の場合は翌日休館)ただし、4月28日(月)は障がいのある方々の鑑賞デーとして開館、4月29日(火)～5月11日(日)は連続開館



〈特集〉 武士のファッション
—戦場の装いから装身具まで—

細川コレクションでは、公益財団法人永青文庫の所蔵品を中心に、熊本の歴史・美術や細川家の大名文化を総合的に紹介する展示を行っています。第1期の特集では、藩主所用の甲冑や装束の展示を通じて、江戸時代の武士の様々な場面における装いを紹介します。戦場で身にまとう戦装束は武士にとって最も重要な装いで、武将たちは自らの存在を周囲に示すため、奇抜なデザインの変り兜や豪華絢爛な陣羽織などを身にまといました。一方、江戸時代の武家の装いは、身分によって細かい規定が設けられており、定められた服装の中でそれぞれの装いに趣向を凝らしました。実用と美を兼ね備えた武具、華麗な陣羽織、工芸技術の粋を尽くして装飾された刀装具や印籠など、多彩な武士のファッションの世界をお楽しみください。



＜前黄地藤立涌文直垂＞
江戸時代 永青文庫所蔵
※展示期間：4/5(土)～5/11(日)



細川忠利所用＜紫糸素懸威鉢巻形兜＞
江戸時代初期 永青文庫所蔵 熊本県立美術館寄託



重要文化財＜毘沙門天図鐙＞
室町時代末～桃山時代 永青文庫所蔵



細川綱利所用＜軍配団扇＞
江戸時代中期 永青文庫所蔵

細川コレクション常設

常設展示では、熊本県立美術館の新収蔵品である細川忠興ゆかりの能面「白式尉」を中心に、細川家の能面・能道具を展示します。また、細川家の家譜、近世細川家の当主の書状や書、「永青文庫常設展示振興基金」による修復で新たに甦った《竹林七賢図屏風》、肥後領内の実景を描いた《領内名勝図巻》を展示する他、細川家16代細川護立が収集した近代日本画のコレクションの中から、横山大観《野の花》などを展示します。



＜白式尉＞
室町時代(15～16世紀) 熊本県立美術館所蔵
※展示期間：4/5(土)～5/11(日)



横山大観＜野の花＞
昭和11年(1936) 永青文庫所蔵 熊本県立美術館寄託
※展示期間：5/20(火)～6/29(日)



〈特集〉 画家たちの系譜
—フランスから日本へ—

19世紀以降、絵画をめぐるフランスと日本の繋がりは深まり、わが国の洋画界はフランスの美意識を受容するなかで展開されました。1920年代になると日本人画家が大挙してパリへ赴き、野獣派やキュビズム(立体派)などの前衛を学んでいます。藤田嗣治(レオナルド・フジタ)やパスキンなどエコール・ド・パリの画家たちも、キュビズムを通過したのちに独自の画風を拓きました。キュビズムの伝播に大きな役割を果たしたのが、アンドレ・ロート(1885～1962)が1922年にパリに開いた画塾でした。洗練された様式を身上としたロートのもとでは日本人も数多く学び、川口軌外らがキュビズムの様式を吸収しています。日本に帰国後、軌外は野獣派のヴラマンクに学んだ中山巍らとともに「独立美術協会」を結成、熊本出身の坂本善三は軌外を通じてキュビズムを会得しました。フランスと日本をめぐる画家たちの系譜は、作品が織りなす豊かな響きあいと魂の交流とを浮き彫りにしながら、東西の美の旅路へと私たちをいざなってくれます。



坂本善三(静物)
1955年 熊本県立美術館所蔵



ジュール・パスキン(果物籠を持つジュヌヴィエヴ)
1929年 熊本県立美術館所蔵



大塚耕二(悲劇的な母)
1936年 熊本県立美術館所蔵

美術館コレクション常設

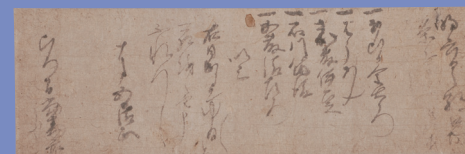
熊本県立美術館の所蔵品の中から、毎回選りすぐりの作品を展示する「美術館コレクション」。第1期の常設では、肥後鐔や刀剣、幕末の御用絵師の絵画、高野松山、増村益城の漆器、平田郷陽の人形、近代絵画の名品・高橋廣湖《貴賤苦楽》などを展示。さらには、近年新たに収集、あるいは発見された加藤清正関連文書を一挙に公開し、熊本の美術と歴史を幅広く紹介します。また、ルノワールやローランサンなどフランス近代絵画を展示し、特集とあわせてご覧いただく構成となっています。



高橋廣湖＜貴賤苦楽＞
明治35年(1902) 熊本県立美術館所蔵
※展示期間：4/5(土)～5/18(日)



ピエール＝オーギュスト・ルノワール
(胸に花を飾る少女)
1900年頃 熊本県立美術館所蔵



＜加藤清正自筆書状＞
江戸時代初期 熊本県立美術館所蔵
※展示期間：5/20(火)～6/29(日)

「永青文庫」
とは？

永青文庫は、江戸時代に肥後熊本の地を治めていた細川家に伝わる美術工芸品や歴史資料等を保存・研究するために設立された公益財団法人です。細川家の「始祖」とされる細川頼有が眠る京都建仁寺の「永源庵」の「永」と、近世細川家の「初代」とされる細川藤孝(幽齋)の旧領・京都西岡の「青龍寺城(勝龍寺城)」から「青」の一字をとり、第16代細川護立氏によって命名・設立されました。当館では、東京の公益財団法人永青文庫が所蔵する様々な美術工芸品や近世屏風、そして近代日本画などを展示できるよう「細川コレクション常設展示室」を設立し、およそ3ヶ月ごとに展示替えを行いながら、永青文庫の名品を常時展示しております。



浜田知明版画室

浜田知明版画室では、熊本市在住の版画家・彫刻家である浜田知明の作品を常設展示しています。今期は、《初年兵哀歌(檻)》など1977年から1981年制作の10点の銅版画を展示します。この頃、ウィーンの国立アルベルティーナ美術館という世界最高の版画・素描コレクションを有する美術館で個展開催(1979年)、続いて神奈川県立近代美術館でも開かれるなど嬉しい出来事が続きました。しかし浜田は《だめな奴》に見られるように自分自身に厳しい姿勢を貫いています。彫刻は1985年《ボス》と1992年《誰も知らない》の2点です。



浜田知明(初年兵哀歌(檻))昭和53(1978)年 熊本県立美術館蔵